

# チームで行う摂食嚥下療法

## 口から食べることを目指す取り組み

口から食べることは、栄養をとり体をつくることはもちろん、生活の喜びや楽しみ、リハビリへのモチベーションUP などにもつながります。当院では、「障害があっても口から食べられる」ことを目指して、多くの専門職によるチーム医療で摂食嚥下療法に取り組んでいます。



言語聴覚士に  
聞きました!

わたなべ みつこ  
渡邊 光子  
言語聴覚士・主任

### Q 摂食嚥下療法はどのように行いますか?

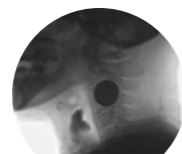
A 摂食嚥下療法には、口や喉の筋肉を鍛える、義歯を調整する、食形態や食べ方を工夫する、などの方法があります。これらを多角的に検討するため、多くの専門職によるチームで治療を行います(右図)。各専門職が専門分野のスキルを活かしつつ、全員がお互いの役割を把握し、活発に意見を出し合ったり議論したりすることで、患者さんにとって一番良い方法を検討していきます。

### Q 摂食嚥下療法における言語聴覚士の役割は?

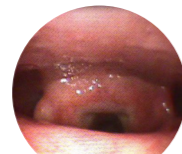
A 摂食嚥下療法の専門職として口や喉の機能を調べたり、医師が行うVF・VE 検査に立ち会い、リハビリプランの立案をチームの中心となって行います。

### Q VF・VE 検査とは?

A 喉の動きを撮影し観察する検査です。VF(嚥下造影検査)はX線を使って撮影する検査で、嚥下時の喉の奥の動きまでしっかり観察できます。VE(嚥下内視鏡検査)は内視鏡を鼻から挿入して撮影する検査で、気管と食道の入口までしか撮影できませんが、患者さんのベッドサイドでも実施することができます。



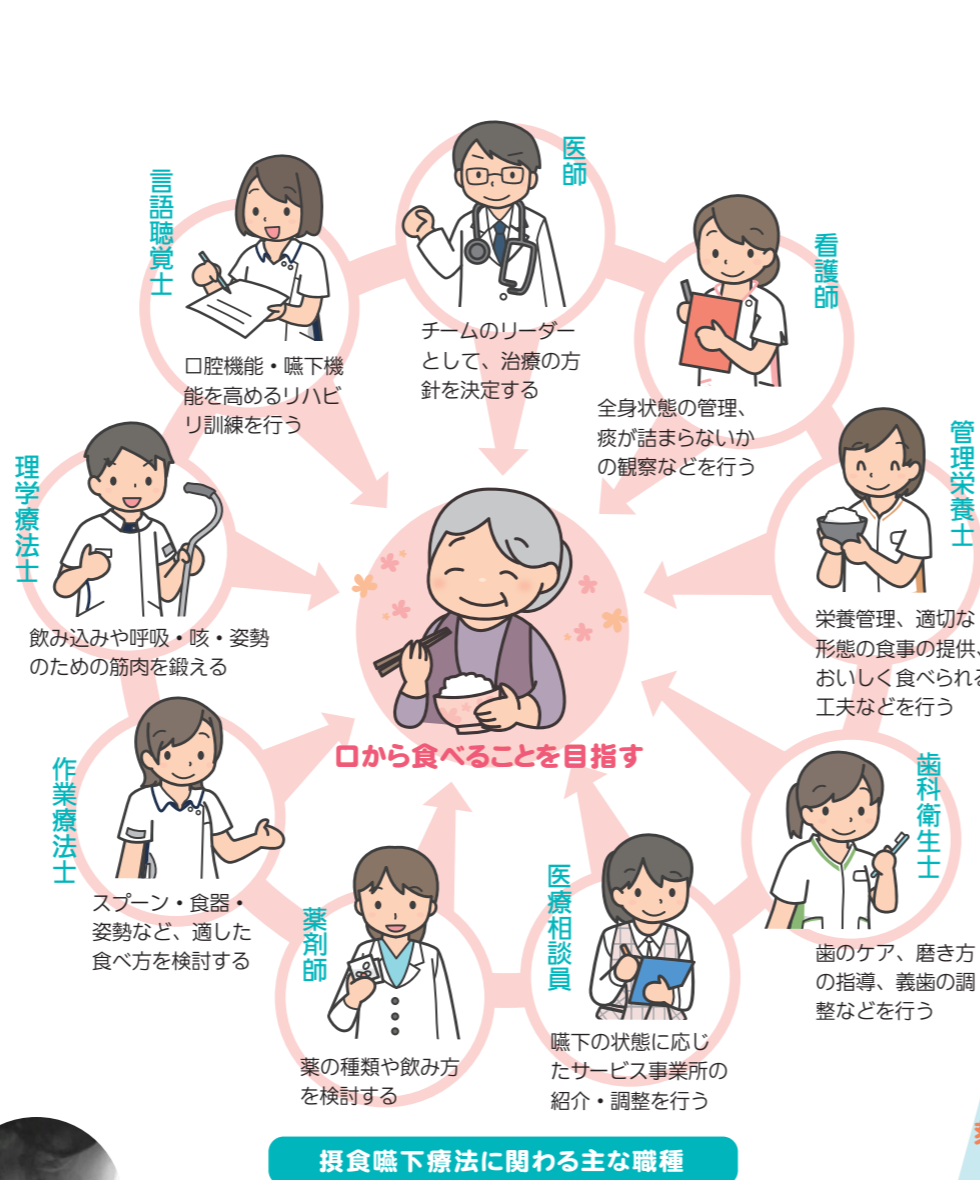
VFの映像



VEの映像

### Q 嚥下障害がある方への食事の形態は?

A 2020年4月より、日本摂食嚥下リハビリテーション学会が定めた「学会分類2013」を導入しています(右図)。共通言語といえる分類を用いることで、急性期病院や退院後の事業者さんとも分かりやすく、効率的な情報共有ができるようになりました。



※写真は、(左) ごはん(中) たまねぎと赤魚の煮つけ(右) なすの煮物です。

管理栄養士に  
聞きました!

かげやま のりこ  
影山 典子  
管理栄養士・栄養課課長



### Q 病棟での管理栄養士の役割は?

A 栄養状態が良くなければリハビリも行えません。まずは患者さんの**栄養管理が第一**です。そして、食事は入院生活の中でも楽しみの一つですから、**安全でおいしい食事を提供**することがとても大切だと思います。

### Q 摂食嚥下療法における管理栄養士の役割は?

A どういった食事なら安全に食べられるのかをチームで決定し、管理栄養士が**その形態の食事を間違いなく提供**します。たくさんは食べられない場合もあるため、栄養管理にも気を配ります。訓練が進んで口から食べられるようになってくると、**患者さんの表情も変わり、生き生きしてこられるのが分かる**んですよ。

### Q 嚥下調整食について、工夫していることはありますか?

A ミキサー食などは、何の料理か分かるように、料理の上にペーストで魚や豚など食材の絵を描いたりします。食材を別々にミキサーにかけて、色を残したりもします。使える調味料が限られてしまうため、味に変化を出すために加工品のムースなどを使うこともあります。このように、**色・見た目・味で楽しめる工夫**を心掛けています(左図)。

当院では全病棟・老健で検食を行っており、職員から上がってくる検食簿の意見も参考にしながら、日々改善を図っています。